

介護の仕事を紹介します



介護業界は今、進化しています

介護業界はICT・介護ロボットの導入などにより
職員の働き方が変わってきています。
外国人、ダブルワーク、他の業界で培ったスキルを生かすさまざまな職員がいます。
進化している新しい世界を覗いてみませんか。

目次

はじめに 01

ヘルパーセンター ファースト・ステップ
訪問記録ソフトを導入して業務効率化を図っています 02

ショートステイ こころはす西蒲
見守りシステムの導入で転倒防止につなげています 05

特別養護老人ホーム 新潟東愛宕の園
ICT機器や介護ロボットを使用しながら、
介護の質の向上・職員の負担軽減につなげています 08

特別養護老人ホーム こうめの里（ショートステイ）
農家と介護職のダブルワークをしています 12

老人保健施設 第二にいがた園
美容業界から介護業界に転職
自分にしか出来ないケアを実践しています 15

特別養護老人ホーム かめだ本町の里
ベトナムから来日 介護福祉士の資格も取得しました 18

取材先事業所の紹介 22

新潟市介護人材確保対策事業 23

関連リンク 24

はじめに

日本人の平均寿命の延伸や少子化などの影響にともない、高齢化が進んでいます。本市の高齢化率も30%を超えており、総人口の約3人に1人が65歳以上です。さらに、2025年には団塊の世代すべてが75歳を迎える時代がやってきます。

そのような状況の中、介護業界は介護保険の創設である2000年から20年が経過し、複雑化した制度や業務に対応しながら、介護に支障をきたさないよう「柔軟な働き方がしやすい環境整備」や「ダイバーシティの推進」など、働きやすい環境整備に日々取り組んでいます。

今回働きやすい環境整備の中から「ICTや介護ロボットの活用」、「ダブルワークの応援」、「自分の得意を生かす環境」、「外国人人材の受入」に取り組む市内6事業所取材しました。

今後もICT・介護ロボットをはじめとした生産性向上とともに、新規参入や多様な介護人材を登用しながら、自らの意欲・能力を存分に発揮できる環境を築いていくことが重要な課題となってきます。

既に働きやすい環境整備に取り組んでいる事業所を、多くのみなさまに広く周知し興味を持っていただくとともに、介護事業所においても参考にして自身の事業所で取り組んでいただけるよう期待しています。

新潟市福祉部高齢者支援課



ヘルパーセンター ファースト・ステップ

訪問記録ソフトを導入して業務効率化を図っています

訪問介護事業所「ヘルパーセンター ファースト・ステップ」では、訪問記録と請求についてクラウド型ソフトを利用しています。

令和2年から導入した「訪問記録」のソフトにより、月の残業時間を約40時間減らすことに成功しました。

法人情報 株式会社Wel-File

平成28年3月に設立後、新潟市内に介護・障がいの訪問介護事業所などを5事業所運営しています。（社員数45名）

20代のヘルパー職員が比較的多く働いているのが特徴です。

現在、障がい福祉サービスである就労継続支援A型の事業所開設に向けて奮闘中です。

ヘルパーセンター ファースト・ステップの管理者である山下さんにお伺いしました

導入前の悩みについて

利用者の健康状態やどのような介護サービスを提供したのかを記録するためのツールとして介護事業所は「サービス提供記録」を作成しています。

導入前は、記録の誤字脱字、レ点のチェック漏れ、ハンコの押印漏れなどがありました。不備がある場合は、新潟県国民健康保険団体連合会（以下「国保連」という。）へ請求したあとに介護報酬の返還が発生することもあるため、請求の提出までに、ヘルパー別・利用者別に分けて不備がないか確認・訂正作業をしていました。

当時の残業時間を計算してみたところ、ひと月あたり約65時間～70時間の残業をしていました。

選定理由

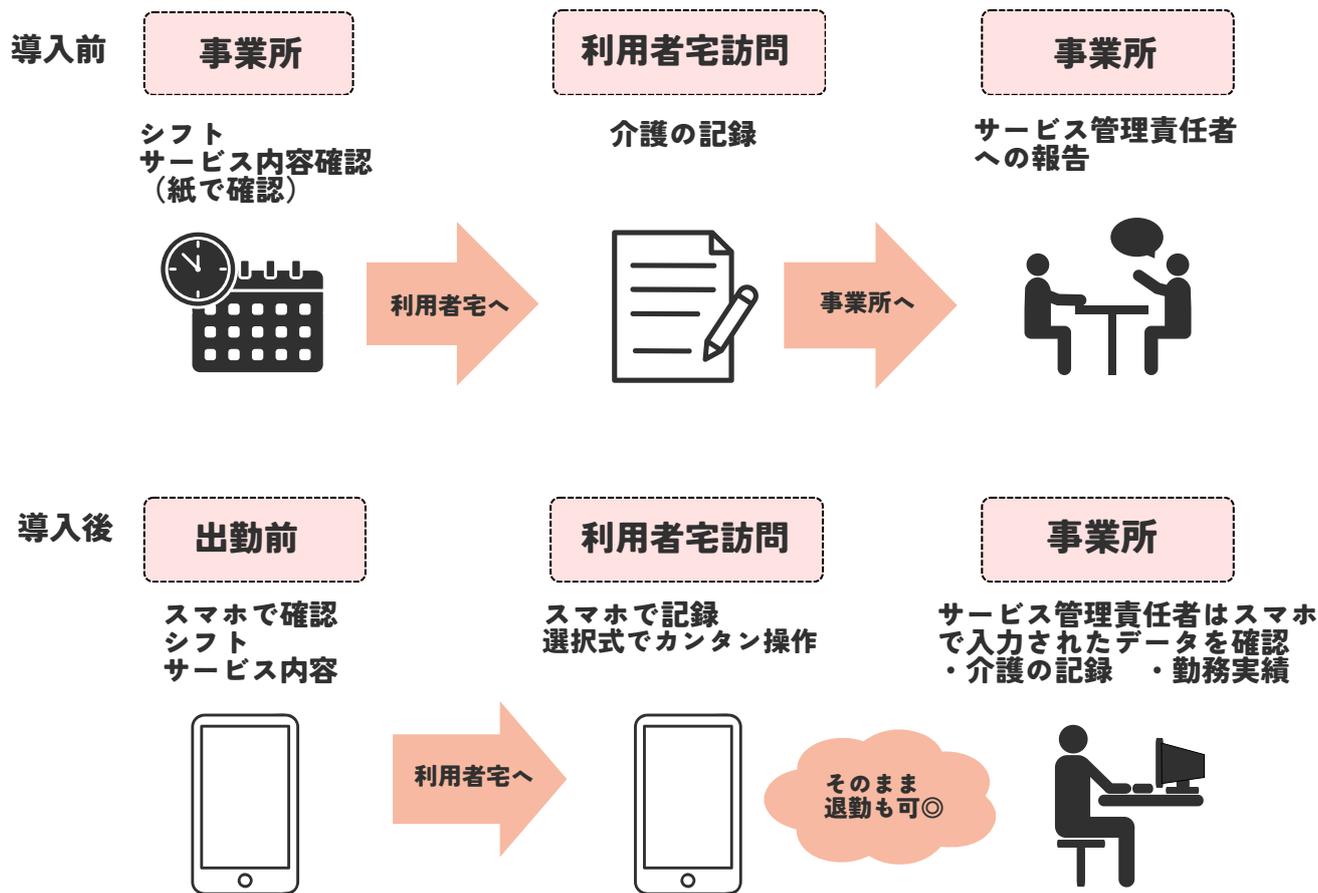
以前より請求の際に利用していたクラウド型のソフトだったこと、費用対効果を考え、**安価で導入ができる**（初期費用なし、1か月あたり1事業所1.5万円程度で利用できる（※））といった点がメリットでした。

またクラウド型のソフトなので、その都度バージョンアップができることから、パッケージ型のソフトと違い、**手間がない**ことも魅力の一つでした。

当時、他に検討していたソフトの中にはパッケージ型のソフトもありましたが、導入するのに高価だったこともあり、現在のクラウド型ソフトの導入に至りました。

※利用サービスの種類によって料金が異なります。

導入前と導入後のイメージ



現在のソフトで利用できる内容について

- ・訪問介護計画書、モニタリング表作成
- ・サービス提供票作成（予定・実績）
- ・利用者への請求書作成
- ・勤怠管理・シフト作成
- ・給与計算
- ・国保連へのレセプト請求



導入後の効果について

「実施記録」に記録した内容を事業所ですぐ確認できることにより、その都度誤字脱字の訂正ができるようになりました。導入したことにより、以前の残業時間と比較して約40時間の削減につながっています。

また勤怠管理の機能で、管理者も事業所で利用者宅への訪問管理ができるため、ヘルパーの支援漏れのリスクが防げるといった効果もあります。

練習方法や職員間の共有方法

ソフト会社から支給されたマニュアルを基に、最初は2時間の研修をしているほか、丁寧にOJTを実施して独り立ちをしてもらっています。



問題点

居宅支援事業所のケアマネジャーが同じソフトを利用している場合は、サービス提供票の連携ができるため、データでのやり取りになりますが、ケアマネジャーが利用していない場合は、従来の紙での共有になるため、やりとりに時間を要します。

また、障がいの訪問介護などを運営してますが、使用しているソフトは、障がい福祉サービスである介護給付のサービスについては導入があるものの、地域生活支援事業のサービスは導入がないため、従来の紙で作成をしています。

地域生活支援事業のサービスについても入力ができるよう導入をしてほしいです。

齋藤代表からの一言

職員には主体性を持ってもらいながら、のびのびとやってもらっています。

山下さんが職員一人一人を大事にしていることもあり、職場の人間関係も良く築けているので、離職率も減っています。

介護人材の確保や定着に向けた取組み

- 様々な研修費を全額補助しています
(新潟市の「介護職員等キャリアアップ支援補助金」も活用しています)
- 昨年からの退職金制度の導入を始めました
- 昼食の弁当代を負担しています



(左) 小出さん

(右) 山下さん

見守りシステムの導入で転倒防止につながっています

ショートステイ「ころろはす西蒲」では、2年前から見守りシステムを導入しています。導入により、睡眠状況の確認や、転倒を防止することができるようになり、利用者への介護の質の向上へつなげています。

法人情報 医療法人 美郷会

医療法人美郷会 西蒲中央病院は、市の地域包括ケアシステムに沿った、一般・包括病棟を有しており、各種介護施設・事業を西区・西蒲区9ヶ所で展開しています。

また、市内の訪問看護ステーション2ヶ所を拠点とし、在宅医療・介護・福祉が連携し地域の皆様に選んでいただける法人を目指して取り組んでいます。

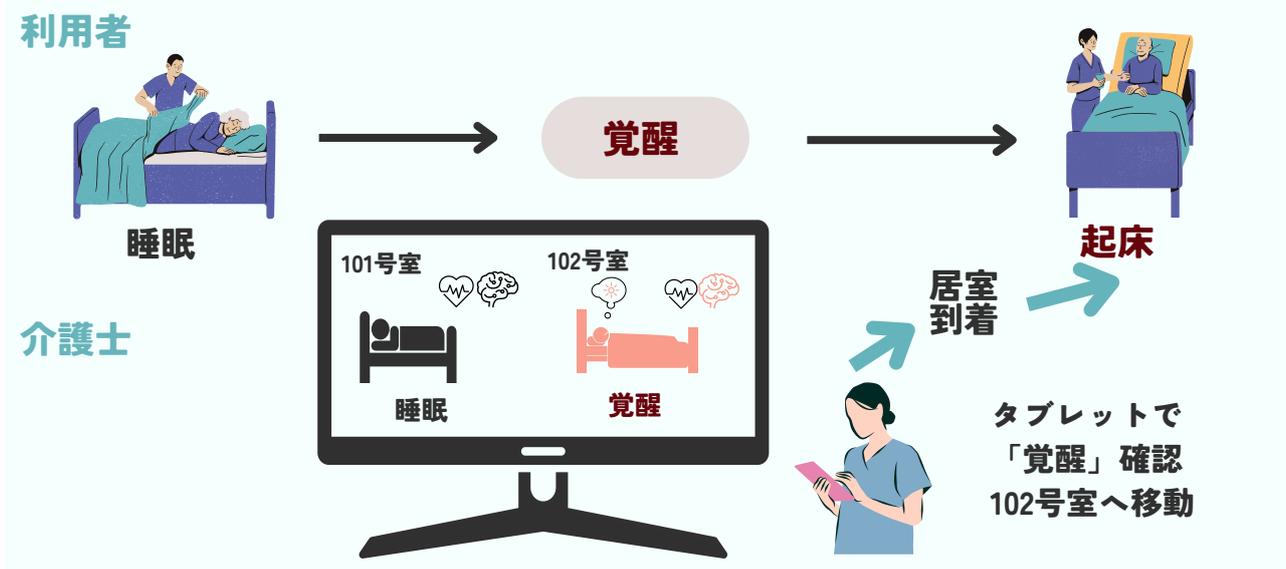
ショートステイ「ころろはす西蒲」の管理者・生活相談員である丸山さんにお伺いしました

導入の経緯

見守りシステムは、ベッドに設置したセンサーにより呼吸状況や心拍数を測り、利用者の睡眠状況を確認して起床前の「覚醒」段階でタブレット端末等に通知をする機器です。

見守りシステム導入前は「センサーマット」を導入していました。センサーマットは、床に配置されたマットに触れるとアラームが鳴るものですが、汚れやすい、設置に時間がかかる、コードが多く故障が多いといったデメリットがあり、福祉用具販売店の方に相談をして、見守りシステムを導入することになりました。

見守りシステムの利用イメージ



導入に至るまで

見守りシステムについては3台を試した結果、今の機器を選びました。その後、半年間のデモンストレーションを行い、購入しました。（現在2台購入）

今の見守りシステムは、操作がシンプルだったこと、比較的安価で購入できることから、選定に至りました。

（1台約9万円、新潟県の補助金を活用して事業所は半分負担）

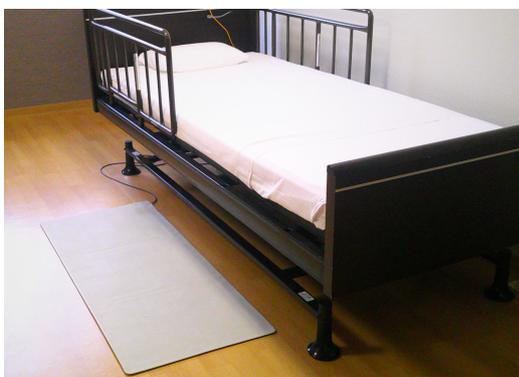
導入後の効果について

これまでセンサーマットが鳴って部屋に訪問すると、利用者が転倒していたケースがありました。見守りシステムを導入後は、起床前の「覚醒」の段階で通知がされ、居室に訪問ができるので、転倒の防止ができています。

また従来のセンサーマットは、床にマットが設置されていたため、センサーが鳴らないように居室から出ていく利用者もいましたが、見守り機器はマットレスの下にセンサーを装着しているため、これまでの悩みが解決しました。

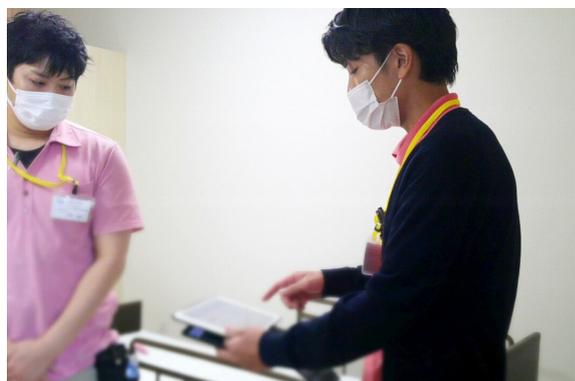
さらに、従来のセンサーマットは設置時間に5分ほどの時間を要していましたが、見守りシステムのセンサーは2分ほどで設置ができるため業務が軽減されました。

【従来のセンサーマット】



- 汚れやすい • 設置に時間がかかる • コードが多く故障が多い
- マットを避けて居室を出ていく利用者がある といった課題がありました

【現在の見守りシステム】



センサーを心臓の位置に合わせて、マットレスの下に敷くだけです。タブレット端末やスマホへ、Wi-Fiを通じて情報が送られます。

※写真をぼかしています。

操作方法の覚え方について

福祉用具販売店やメーカーの研修を聞くことや、メーカーから支給されたマニュアルを職員が見やすい場所に置いています。また、その都度分からないことが発生した時は、分かる職員に聞いて覚えています。

対象利用者の選定について

現在は2台のみの導入であることから、認知症の度合いが高い人、職員の事務所から遠い部屋の利用者に絞って利用しています。

今後も県の補助金を活用しながら、台数を増やしていきたいと考えています。

導入して困ったこと

マットレスの下にセンサーを敷くものの、位置によって反応しない場合があり、あらかじめ定位置にあたるよう、頭の位置を決めておく必要があります。

また、タブレットやスマートフォンでのアプリを起動したままにしておかないと、センサーと連動した動きをしません。（※）

介護をしている際にアプリが閉じてしまうことがあり、利用者が起床していたことがありました。どこにスマホを所持するか工夫が必要です。

※使用するメーカーによって異なります。

町田施設長より

介護ロボットを導入することにより、利用者の事故を未然に防いだり、これまで気づかなかった利用者の生活スタイルを知り、QOL（※）の向上にもつなげられます。

また、職員の負担軽減や業務の効率化を図ることができ、利用者・職員、双方に良い影響が得られます。

これからも様々な場面で活用できる介護ロボットを取り入れていきたいです。

※QOL（Quality of life）・・・利用者一人一人がその人らしく生きる（生活する）こと

介護人材の確保や定着に向けた取組み

- ・介護記録ソフトを導入して職員の負担軽減を図っています
- ・保育料の全額負担をしています
- ・誕生日休暇があります



（左から）丸山さん、多賀さん、町田施設長



特別養護老人ホーム 新潟東愛宕の園

ICT機器や介護ロボットを使用しながら、介護の質の向上・職員の負担軽減につなげています

特別養護老人ホーム「新潟東愛宕の園」では、起立補助リフト、床走行リフト、骨伝導イヤホンをはじめとした「ICT・介護ロボット」を導入しています。導入と同時にケアの工程を見直すことで、介護の質の向上や職員の身体的・精神的負担の軽減に取り組んでいます。

法人情報 社会福祉法人 愛宕福祉会

NSGグループの社会福祉法人愛宕福祉会は新潟県内で10ヶ所の特別養護老人ホームを運営しています。

介護の質の向上や職員の負担軽減に努め様々な取り組みを実施してきました。ICTでは施設の定員の半数以上の見守り機器等を導入しています。

また、4ヶ所の特別養護老人ホームにおいて、業務負担軽減+理想のワークライフバランス+人材定着+離職防止=サービス品質の向上を目指して、介護職の週休3日×10時間シフトの新しい働き方を導入しました。

社会福祉法人 愛宕福祉会 人事部部長 馬込さん
「新潟東愛宕の園」施設長 高橋さん、生活相談員 北さんにお伺いしました

導入の経緯

今後、生産人口の減少や採用の困難が見込まれる中、少人数のオペレーションでも職員の身体的・精神的負担が少ない状況を作り、支援の質を落とさず利用者の生活の維持、向上を目指す仕組みが必要だと考え、本格的にICT・介護ロボットの導入を行うこととなりました。

導入前の課題

職員の退職に伴い、時間外勤務が常態化していました。

また、介護度の高い重度者の移乗支援等は、職員2名で介護をしなければならず、職員がもう一人の職員を”探す・呼ぶ・待つ”といった工程が発生します。呼ばれた職員が担当する利用者の転倒をはじめとした事故のリスクも増すため、ムリ・ムダ・ムラが多いとこれまで感じていました。

さらに移乗支援時等の身体的負担で、腰痛等に伴う職員の休暇が発生することもありました。

平成31年頃には業務改善の取り組みとして複数種類の見守りシステムを数台導入していましたが、広く浅く周知されていたため使いこなせていない状況が続いていました。

【床走行リフト】

- ベッドから車いすへ移動するために使用しています
- 利用者に吊り具のついたシートを装着し、シートをリフト本体についたハンガーに装着することにより、スイッチ操作で移動先まで吊り上げて移乗ができます
- リフト本体にキャスターがついており、職員の身体的負担なく移動することができます



※プライバシー配慮のため、写真をぼかしています。

【起立補助リフト】

- 立位保持が困難な方のトイレ介助をする時に使用しています
- 電動起立補助機能で、スリングシートを利用者さんに装着し、シートと本体のフックを引っかけることにより起立したまま移動が可能です
- 電動のため、職員の身体的負担なく移動することができます



【骨伝導ヘッドセット・インカム】



- 耳を塞がずに音声を聞き取ることができるので、ヘッドセットをしたまま利用者の言葉を聞くことが可能です
- ヘッドセットと合わせてインカム（無線機）も使用しています
- 人手が足りないときに無線で連絡が取れるので、手の空いた職員を探す手間を省くことができます

【見守り支援システム】

- ・居室にセンサーを設置し、訪問することなく利用者の状況が把握できます
- ・利用者の離床、転落、心拍・呼吸数、睡眠状態などが把握できます

導入に至るまで

令和4年7月に5部署の内1部署をモデルとしてICTや介護ロボットの導入を本格的に進めていこうと話が出ました。介護を支援する上での課題に対し、解決できそうな機器を選定しました。

機器の選定は東京のイベントなどに参加して施設に合うものを探し、業者のプレゼンテーションやデモンストレーションで実際に確認して決めています。

現在の床走行リフトは3台程度試した結果、大勢の人に使えるといった点から選定し、起立補助リフトは標準的なモデルで費用対効果を考えて選定しました。

(床走行リフト1台35万円 起立補助リフト1台50万円

新潟県の補助金を活用して事業所は半分負担)

操作方法の覚え方など

業務内容が変わることへの職員の不安に対し、流れを文書や動画にまとめるなど、しっかりと説明しました。また、業務内容の整理や流れを整えた上で「まずはやってみよう」と声掛けをして、機能訓練指導員を中心に実際に触って覚えていきました。機器にもよりますが2～4か月程度で馴染みました。

見守りシステムは1年間かけて馴染んでもらい、現在は種類を1種類に絞って利用者の8割に使用しています。

導入後の効果について

(利用者への効果)

- ・職員を呼ぶまで待ってもらう時間が発生していましたが、待たせることなく支援ができるようになりました
 - ・職員1名で効率良く見守りできるようになったことで、利用者の隣で過ごす時間を作れるようになりました
 - ・見守りシステムの「睡眠状態」の確認により、寝れていない利用者が分かるようになったので、睡眠効率について考えるようになりました
- 日中の活動量を増やしてみることや、マットレスを10種類程度（低反発・高反発等）準備して、睡眠の質が向上するか実践するようになりました

(職員への効果)

- ・少人数でも介護の質を落とさないオペレーションができるようになりました
- ・夜間業務の負担が軽減されたことで、日中に残業していた業務を夜間の職員が担当することで業務負担が軽減されています

訪問回数（夜間）の改善時間

導入前

日 200回

導入後

日 140回

←
60回訪問削減

夜間の訪問回数を調査したところ、夜勤1日あたり200回訪問が、140回の訪問に改善されました。

これは夜勤1日あたり60回の訪問削減です。

1回あたりの訪問時間を2分と考えると、夜勤1日で2時間の業務軽減にあたります。

今後の目標について

ICT・介護ロボットの導入により業務効率化できた部分について、利用者へのケアの向上につなげたいと考えています。利用者が入院しないよう、尿路感染や誤嚥性肺炎を防ぐために、余った時間で水分量の確認回数や口腔ケアの時間に使っていきたいです。

高橋施設長より

介護をする上での課題に対し、解決出来そうな機器がどう使えるか発想してみること、一定の数を確保して導入することが、業務改善につながります。

しかし、一気に多くの部署に導入してしまうと、職員が業務内容の整理や使用の流れが理解できず、使えるものも馴染まないのもので、一部の部署で成果を上げたタイミングで施設全体に広めて導入するのが望ましいと思います。

介護人材の確保や定着に向けた取組み

- ・ICT機器等を積極的に導入し、介護職員の負担軽減を図ることで離職防止に努めています。また利用者と過ごす時間を増やし『やりがい』を高めるよう職員一同が取り組んでいます。
- ・介護職の週休3日×10時間シフトの新しい働き方を導入しています。



(左から) 馬込部長、高橋施設長、北さん



特別養護老人ホーム こうめの里 (ショートステイ)

農家と介護職のダブルワークをしています

特別養護老人ホーム（ショートステイ）「こうめの里」では、14年前から農家の閑散期である秋と冬の季節を中心に介護業界で働いている職員さんがいます。農家もしながら介護業務とのダブルワーク。働くことになったきっかけや年間を通しての働き方について伺いました。

法人情報 社会福祉法人 秋葉福祉会

新潟市秋葉区で3つの特別養護老人ホームを中心に介護保険事業を行っています。

法人理念は、「明るく きれいで 健やかに」「明るく 楽しく 和やかに」を掲げ、地域の福祉の拠点として活動しています。

特別養護老人ホーム（ショートステイ）「こうめの里」の介護職員である高橋さんにお伺いしました

働くことになったきっかけ

平成22年頃までサービス業の仕事をしていましたが、その当時交際中であった妻の義父の介護が必要となり、介護について妻と調べ始めたことがきっかけでした。調べてみると「休日が多い」「賞与がきちんとある」ということが分かり、介護業界について関心を持ち、転職しました。

その後、妻の実家が農家をしていましたが、農家の後継ぎが必要となったため、農家と介護職のダブルワークをすることを決めました。

ショートステイの業務に携わるまで

介護業界に入職するため、まずはハローワークの職業訓練に通いました。そこで実務者研修（※）受講中に、現在の法人の違う施設へ実習へ行ったことがきっかけで就職が決まり、最初は正社員として働くことになりました。

その後、農家もすることになったため、同法人のデイサービスで送迎の業務をしていましたが、1日2時間で収入が少ないこともあり、現在のショートステイ業務に変えてもらい、今に至ります。

※実務者研修・・・介護職員として働く上で必要な介護過程の展開や認知症等について学習し、介護の専門家として生涯働き続けるためのスキルを磨くことができる講座

年間のスケジュール

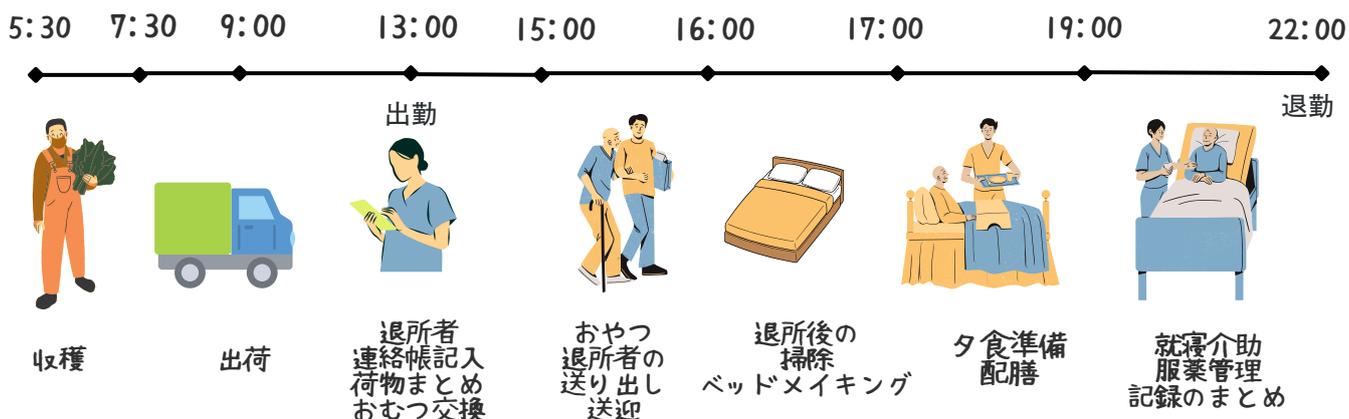
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1月 介護職（月10日休） | 7月 農家繁忙期（介護職休職） |
| 2月 介護職（月10日休） | 8月 農家繁忙期（介護職休職） |
| 3月 農家繁忙期（介護職休職） | 9月 介護職（週3日勤務） |
| 4月 農家繁忙期（介護職休職） | 10月 介護職（週3日勤務） |
| 5月 農家繁忙期（介護職休職） | 11月 介護職（月10日休） |
| 6月 農家繁忙期（介護職休職） | 12月 介護職（月10日休） |

農家の仕事が落ち着く9月から復帰。

11月から2月まで農家と介護職のダブルワークをしています。

農家の収穫・出荷の都合で、夜勤勤務の方が働きやすいそうです。

一日のスケジュール（遅番の場合）



※変形労働時間制を採用しています。

ダブルワークをしてみて

最初は、介護と農家のダブルワークに不安はありましたが、施設にお願いしてシフトを固定してもらい、気持ちの切り替えや体調管理がしやすくなりました。農家の仕事で疲れていることもあります。利用者から「ありがとう」「また、泊りにくるね」と声を掛けられると疲れも軽減します。ストレス解消としては、仕事が終わったあとの「一杯」が楽しみです。



高橋さん

こうめの里 宮崎園長から

高橋さんは、農家と介護の二刀流です。「農家と介護を両立したい」「夜勤も行いたい」との話があり「大丈夫かな」とは思いましたが、持ち前のバランス感覚を生かして仕事を行っています。介護の仕事も農家も自身が使うことのできる時間は決まっており、生産性向上を意識することが大切です。高橋さんは、有資格者で経験豊富な貴重な介護人材です。法人としても、多様化する働き方を支援していきたいと考えています。

介護人材の確保や定着に関する取組み

- 年間休日120日、育児休業・育児短時間勤務は、女性職員が100%利用しており、男性職員の育児休業も推進しています
- 有給休暇は、時間単位で取得可能で柔軟な対応が可能です
- 県のハッピー・パートナー企業（男女共同参画推進企業）に登録しており、令和3年には「パパ・ママ子育て応援プラス」の認定を受けています
- 職員のスキルアップに力を入れており、実務者研修や介護支援専門員の更新研修は、自己負担なしで勤務として対応しています



職場は、職員の生活を支えます



利用者の生活を支えます

美容業界から介護業界に転職 自分にしか出来ないケアを実践しています

老人保健施設 第二にいがた園では、美容業界から転職して、介護業界で働いている職員さんがいます。前職での経験を生かしたケアを介護業界でもできないかーそんな動機から始まった、利用者さんへ”美”を提供する取り組みについて伺いました。

法人情報 医療法人 仁成会

とやの中央病院・老健にいがた園・老健第二にいがた園で構成される医療と介護をシームレスに提供する医療法人です。

知識や経験はもちろん、高齢者やご家族、また医療や介護の垣根を超えた多職種間のコミュニケーションにより、ニーズの本質を把握し応えようとする姿勢を持ちながら、「一人一人に最適なケアを」の理念のもと、医療と介護を両輪として、地域の皆様が安心して暮らせる地域づくりへの貢献を目指しています。

介護老人保健施設「第二にいがた園」の介護職員である小杉さんにお伺いしました

転職を決めたきっかけ

学生時代は”美容師”と”介護士”どちらにも興味があり、一方を選択するのに悩んでいましたが、まずは修行として、体力のいる美容師になろうと学校に通いました。その後、美容師資格を取得して美容業界へ踏み込みましたが、仕事をするうちに介護職について興味が沸いてきたことから、介護業界への転職を決めました。

働いてみると、残業もなく、月に数日は希望休が通るので働きやすい職場です。

現在の職場で働くことになったきっかけ



(左) 和田事務長 (右) 小杉さん

介護老人保健施設の特徴である「自宅復帰を目標として、普段の私たちと同じ生活を提供する」という点に興味を持ちました。

また、未経験者の募集を行っていたことも、今の施設で働くことになったきっかけの一つです。

現在は実務者研修を経て、介護福祉士の国家試験を受験予定です。

”美”を提供するまで

転職して2年が経ち「美容と介護」何かつなげれるものができたらいいなと思っていた矢先、別の職員から「美容室」を施設内にも作ったらどうかという話になりました。そこで先輩と一緒に職場へ提案をして、現在の”美”を提供する空間”ことりサロン～美麗～”を作りました。



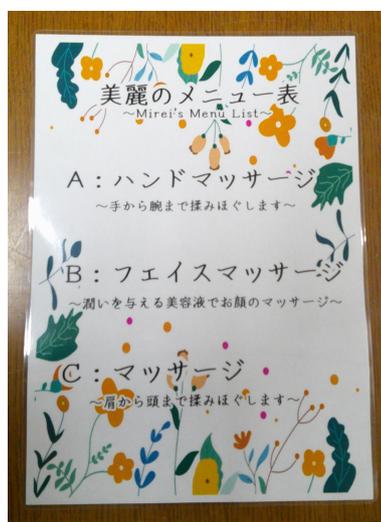
ことりサロン～美麗みれい～

- 普段とは違う空間で、カットやマッサージを提供しています
- お部屋は利用者にゆっくり過ごしてもらえよう、職員で空間を作りました
- テーブルは教卓をリメイクしています

ことりサロン～美麗～の利用について

利用者は、生活リハビリとして、床掃除や掃き掃除、食器の片付け、歩行訓練などを行います。

生活リハビリをポイント制にして、1000ポイントが溜まった方へカットやマッサージ等を提供しています。



”美”のケアを実践して

髪の毛をカットすることによって、利用者が笑顔になります。

また、ほかの利用者さんからも「綺麗になったね」「素敵になったね」と言われることで、利用者がさらに笑顔で元気になれる印象があります。

「介護」と「美容」

「介護」と「美容」は「綺麗にする」というのが共通した部分だと思います。汚れたら変える、形が崩れたら綺麗にするといった点です。

また、美容業界でも介護と同じように「尊厳」について考えます。その人が望む髪形や美容意識というものが誰にでもあります。

利用者さんが「介護」と「美容」でポジティブになれる、私なりの提案が今後もできればいいなと思います。

和田事務長より

高齢者医療では、一人一人の心身の状態や暮らし方なども含め、広い視野からの判断や長いスパンでの治療やケアが求められます。また、治療やケアの質を上げていくため、医療の場でも介護の場でも、現場での発見と自主的な学びにより、成長していく人材が必要です。

「美容と介護」をつなげたいと提案を受けたときはとても嬉しく思いました。

介護人材の確保・定着に関する取組

- SNSでの施設内の情報を発信しています（Instagram📷 dai2niigataen）
- 介護記録システム、見守りシステムの導入をして職員の負担軽減を図っています
- 研修費の補助を行っています
- 朝食・夕食の補助を行っています





特別養護老人ホーム かめだ本町の里

ベトナムから来日 介護福祉士の資格も取得しました

特別養護老人ホーム かめだ本町の里では、ベトナムから来日して働く外国人の介護職員さんがいます。令和5年3月には介護福祉士の国家資格にも合格し、介護のスペシャリストとして日々努力を積み重ねています。日本で働きたいと思ったきっかけ、実際に介護をやってみた感想などを伺いました。

法人情報 社会福祉法人 中蒲原福祉会

平成9年に旧亀田町（現新潟市江南区）が設立した公設法人（現在のデイサービスセンター向陽園）が始まりとなり、江南区と秋葉区で高齢・障がい・保育の事業をしています。社員数800名（うち外国人人材4名）

コツコツと努力する職員が多く、常勤・非常勤問わず、入職後に国家資格等を取得する方が多いです。入職や異動により新しく一緒に働くことになる職員に対してウェルカムな雰囲気があります。

特別養護老人ホーム「かめだ本町の里」の介護職員である ファム ティ トゥ フォンさんにお伺いしました

日本へ、そして介護職を選んだ理由

高校生の頃、友達に紹介された日本の「アニメ」や「音楽」が「カワイイなあ」と思い、日本語を勉強し始めました。その後、進路を考える時期が来て「日本で働いてみようかな」という気持ちになったこと、「介護」という仕事があることを知り、日本へ留学して介護業界で働こうと決めました。

新潟へ、そして今の施設で働くまで



令和元年11月	現在の法人とオンライン面接 採用決定
令和2年	長野県内の日本語学校へ入学 新潟市内の福祉系専門学校に通い ながら現在の施設でアルバイト 現在の施設でフルタイムで働く
令和3年	
4年	
5年	

令和3年・4年の平日は学校、土・日・祝はアルバイトと休みなく活動していました。現在の在留資格は「介護」です。

(左) フォンさん (右) 指導員 石本さん

一日のスケジュール（早番の場合）



フルタイムで業務を取得した期間

- 1 か月目 指導員について教えてもらう
- 2 か月目 日勤業務を一人で担当
- 3 か月目 夜勤業務を指導員について教えてもらう
- 4 か月目 日勤・夜勤ともに一人で担当

※指導員の石本さんより「フォンさんは他の日本人職員と同じペースで業務を覚えています。アルバイトの期間にある程度の業務を習得できていました。」

日本語の勉強方法、難しい言葉

業務中に分からない言葉があった場合は、インターネットや翻訳機、辞書で調べて習得しています。略されている言葉や病気の名前を覚えることが難しかったですが、一つ一つ教えてもらって覚えています。現在の日本語能力検定はN2を取得しています。

N2の目安…日常の場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる

※指導員の石本さんより

雇用すると決まった時は、言葉の壁について一番心配をしました。来る前に、ベトナム語に翻訳した資料を準備し、日本人職員へ周知したこともありました。

しかし実際に雇用して一緒に働くと、思ったよりも日本語が上手で、コミュニケーションで苦労した経験は特にありません。記録も翻訳機などを使用せずに行っています。間違えているなと思う言葉も前後の言葉のニュアンスから分かるので、その都度教えてあげています。

介護の仕事をやってみて、大変だったこと

利用者さんの一日の様子をケース記録に書かないといけませんが、打つ量が多く苦労しています。また利用者が発熱したときや転倒した時は大変でした。

※指導員の石本さんより

ケース記録は、ローマ字打ちにしたり工夫しながら作成してくれています。また、利用者の発熱や転倒時の対応は、日本人の職員でも最初は気が動転してしまう方もいますが、フォンさんは看護師にしっかりと引き継ぎができています。

日本に来て良かったこと、悪かったこと

【良かったこと】

- ・自分で自立できたこと、家族に仕送りをできたこと
- ・アニメを見て日本語の理解ができるようになったこと
- ・東京に行って友達と遊んだこと

【悪かったこと】

- ・寒い（特に新潟は）、雪で電車が止まって大変だった
- ・家族にすぐ会えない
（2年に1度は帰省したいです。今はテレビ電話で話をしています。）
- ・果物が高い、ベトナムのごはんがすぐに食べられないこと



日常の生活で、自分の国と違うと思ったこと

日本はとても静かな国だと思いました。ベトナムでは朝の6時くらいから行動し始め、朝は体操や道端にあるお店で買い物をする人が多く賑やかです。

また私の通った学校は、午前7時～11時半、午後は14時～17時まで授業がありますが、12時から14時までは昼食後に仮眠をする時間がありました。

朝から行動するので、今も寝起きがしんどいことはありません。

指導員の生活相談員 石本さんより

フォンさんは、綺麗で方言のない分かりやすい言葉を話すので、利用者も理解がしやすいようです。利用者からの差別などはなく、孫のように可愛いとっておき信頼度も高いです。

また、何事にも一生懸命で、遅刻もなく体調管理もしっかりできています。さらに、愚痴をこぼしたり、不平不満を漏らすことがなく、フォンさんが働き始めてから**職場の士気が上がりました**。私自身も尊敬できる部分です。

施設では利用者一人一人に担当職員がつきますが、今後はフォンさんからの希望もあり、担当職員をしてもらおうと考えており、利用者さんのご家族へ送付する手紙を書いているところですよ。

法人から外国人雇用についての確保・支援

- ・専門学校と情報共有し、現地とつないだオンライン採用面接を行っています
- ・専門学校在籍中は専門学校で学んだ内容を実際の支援場面で生かせるように、アルバイトとして外国人人材を受け入れています
- ・住居は法人と一緒に探し、居住手続きをサポートしています
- ・生活必需品は法人で購入し提供しています
- ・配属先の指導員と法人本部で2か月に1回、面談する機会を設けています

国兼理事長より

令和2年より外国人の導入を始めましたが、フォンさんだけではなく、他3名の職員も真面目に一生懸命働いてくれています。

今後、令和8年4月1日に4, 5名の外国人の入職を予定しており、現在働いている外国人職員には指導員の立場として、新人外国人職員の育成をしてもらいたいと考えています。既に面接は実施しており、顔合わせの際は通訳を担当してくれて助かりました。



令和6年1月に本市が開催した「外国人介護職員受け入れセミナー」にも、事例発表でご参加いただきました。

介護人材確保・定着に向けた取組み

- ・福祉系以外の学校を卒業した学生も多いため、入職後3日間の新人研修、1年目3回、2年目2回フォローアップ研修を実施しています
- ・新入社員と比較的年齢の近い職員が担当になりOJTを実施しています
- ・定年まで勤めていただく事をモットーに、結婚・出産・育児・両親の介護などライフステージに合わせて、常勤や非常勤など柔軟に行き来できるような雇用形態をとっています
- ・緊急時にも不安が無いように、いざという時に対応できるベテランスタッフと一緒にシフトを作成しています



取材先事業所の紹介

<p>ヘルパーセンター ファースト・ステップ</p>	<p>〒950-0864 新潟市中央区紫竹1丁目16番6号 パーソンビル2F201 025-384-4320 https://www.welfile.co.jp/homehelp/</p>
<p>ショートステイこころはす西蒲</p>	<p>〒959-0411 新潟市西蒲区善光寺900番地 0256-88-3222 http://misatokai.or.jp/n.kokorohasu/</p>
<p>特別養護老人ホーム 新潟東愛宕の園</p>	<p>〒950-0837 新潟市東区若葉町2丁目17番40号 025-257-6010 https://www.atago.or.jp/</p>
<p>特別養護老人ホームこうめの里 (ショートステイ)</p>	<p>〒956-0041 新潟市秋葉区小屋場335番地1 0250-21-1165 https://care-net.biz/15/akihanet/</p>
<p>老人保健施設 第二にいがた園</p>	<p>〒950-1144 新潟市江南区祖父興野270-1 025-285-1800 https://www.jinseikai.jp/dai2niigataen/</p>
<p>特別養護老人ホーム かめだ本町の里</p>	<p>〒950-0164 新潟市江南区亀田本町1-4-14 025-278-3828 https://nakakan.or.jp/</p>

ご協力いただきありがとうございました

新潟市介護人材確保対策事業

新潟市では、介護人材の確保や定着に向けた取組みを行っています

<p>医療と介護の出前スクール</p>	<p>介護事業所で勤務する職員から小・中学校、高校の学生に向けて介護の仕事や魅力について紹介しています（地域医療推進課と共同実施）</p> 
<p>介護施設見学会</p>	<p>介護職に興味がある人を対象にハローワーク新潟でオンライン等の施設見学会を実施しています（ハローワーク新潟と共同開催）</p> 
<p>介護福祉士養成校学生表彰</p>	
<p>外国人介護職員 受け入れ支援セミナー</p>	<p>介護事業所が外国人介護職員の受入環境を整備するため、制度や受入方法、外国人職員との交流を含んだセミナーを開催しています</p> 
<p>処遇改善加算取得セミナー</p>	<p>介護職員処遇改善加算等について、新規取得や上位加算の取得に向けて、制度や取得に必要な提出書類の書き方等を習得できるセミナーを開催しています</p>
<p>介護職員等 キャリアアップ支援事業</p>	<p>介護サービス事業を運営する法人が、介護職員等に対する研修や、資格取得に係る経費等を負担した場合に補助金を交付しています</p>
<p>新潟市 介護人材確保対策協議会</p>	<p>介護人材の確保に向けて、事業者・介護福祉士養成校・行政が現状課題の抽出や対応策について協議するなど、具体的な検討をしています</p>

関連リンク

新潟市ホームページ

介護人材の確保・育成及びその支援	https://www.city.niigata.lg.jp/iryo/kaigo/kaigojinzai/kaigojinzai.html	
「KAIGO no OSHIGOTO ー介護の魅力発信動画 by MC KAIGOー」について	https://www.city.niigata.lg.jp/iryo/kaigo/kaigojinzai/kaigomiryokudouga.html	
外国人介護人材について	https://www.city.niigata.lg.jp/iryo/kaigo/kaigojinzai/gaikokujinkaigo.html	

新潟県ホームページ

にいがたかいごのお仕事 新潟県介護人材マッチング支援サイト	https://www.niigatakaigo.jp/	
----------------------------------	---	--

<p>介護人材確保に向けた取組</p>	<p>https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02977.html</p>	
<p>介護分野における生産性向上ポータルサイト</p>	<p>https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html</p>	
<p>介護ロボットの開発・普及の促進</p>	<p>https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html</p>	
<p>外国人介護人材の受入れについて</p>	<p>https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28131.html</p>	
<p>介護の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム</p>	<p>https://www.kaigo-pf.com/</p>	
<p>ニーズ・シーズマッチング支援事業</p>	<p>https://www.kaigo-ns-plat.com/</p>	
<p>介護ロボットポータルサイト</p>	<p>https://robotcare.jp/jp/home/index</p>	

「介護の仕事を紹介します」
令和6年4月発行

発行：新潟市

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1

編集：新潟市福祉部

高齢者支援課

TEL：025-226-1295／FAX：025-222-5531

E-mail：koreisha@city.niigata.lg.jp